

令和6年度「非違行為防止研修」実施計画書及び実施報告書

※白黒反転しているセルは報告段階で記入。回数、月名等は数値のみ半角で記入。

郡市名	北安	市町村名	小谷村	学校名	小谷小学校	校長名	
学校種(小:1,中:2,特支:3,義務:4)	1	記入者職名	教頭	記入者氏名			
電話番号	0261-82-3522		メールアドレス	otaries@otari.ed.jp			
非違行為防止委員人数	5	非違行為防止委員会主任職名	教頭	非違行為防止委員会第三者委員役職名	PTA会長		
非違行為防止委員会実施予定回数	3	非違行為防止委員会の実施回数	3	非違行為防止委員会実施月	4・7・11		
非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善予定定期限月	3	非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善月	3	1人の教職員当たりの校長面談予定回数	3		
1人の教職員あたりの校長面談実施回数	3	1回の校長面談の平均実施時間(分)	20	校長面談実施月	5・9・2		
相談窓口の利用促進にかかわる工夫	校内掲示板への表示 学校だよりでの紹介					相談窓口利用実績	11
非違行為防止研修内容・校内ルールの公表方法	ホームページ掲載	公表予定回数	4	公表回数	3	公表実施月	5・9・12

○本年度の非違行為防止に関わる目標

目標	児童や自分の家族を悲しませないために、教職員が教育公務員としての自覚と責任をもって、社会規範に反する行為を絶対に行わないようにする。 一人に負担を負わせることなく、教職員が互いに支え合い、信頼し合い、助け合える温かい関係づくりを築く。
----	--

○非違行為防止研修の実実施計画と実施報告

実施月	非違行為防止研修実施計画	実施報告(教職員の参加の様子や反応、感想など)	研修の回数(下記に回数を入れてください)							
			講演・講習	マニュアル等作成	チェックリスト作成・実施	校内体制整備	資料等読み合わせ	協議・体験・演習	その他	
4月	・全県の非違行為の状況や原因について学校長から話を聞き、全職員が家族に向けた手紙形式で非違行為防止の誓いを記述する。	・昨年度の非違行為の状況を知り、「誓い」を書いて気持ちを引き締めた。「父と母、支えてくれてありがとう。私はそのようは家族を裏切るような行為を絶対行いません。」などの言葉が書かれていた。			1			1		
5月	・機密文書紛失の事例をもとに、小集団で防止に向けた管理体制や個人が守るべきことを話し合い、確認する。	・昨年度実際に起きてしまった事例について話し、「車の中に絶対に個人情報を置かないようにする」「USBは持ち歩かない」などの感想が出された。	1				1			
6月	・外部講師を招いた職員のICT研修を通してネットを利用する際の個人情報保護、著作権について学ぶ。オンライン会議で情報を漏洩させないための注意点についても話を聞く。	・外部講師を招き、ネット利用の注意点や著作権について学んだ。「どのようなことが著作権侵害になるのか分かった。」「個人情報を漏らさないために写真を出すときや共同編集するときには十分注意したい。」などの感想が出された。	1				1	1		
7月	・パワーハラスメントの判断基準3要素や6つの行為類型、アンガーマネジメントを見直し、体罰根絶のためのセルフチェックシートで各自が自分の言動を振り返る。	・「パワーハラスメントとなりうる行為」と「パワーハラスメントは懲戒処分の可能性もあること」を確認し、よりパワーハラに対する意識を高めることができた。	1		1	1		1		
8月	・年度当初記述した誓いを再確認する。飲酒運転・スピード違反について基礎的知識、処分事例を学び、非違行為が起こった際の影響について考える。事故が起きた時の対応マニュアルを確認する。	・「誓い」に家族への思いを書いて非違行為を起こさないことを再確認した。「大切な家族を悲しませないために決して飲酒運転はしません」等の言葉が書かれていた。	1	1	1					
9月	・特別支援研修と絡めながら、個に応じた児童への適切な接し方について連学年で話し合う。どのような言動が暴言と捉えられてしまうのかも確認する。	・「通常学級でひとりひとりに応じた温かい声がけができることが大事だと思った」「決めつけたり排除したりしないことが大事だと思った。」等の感想が出された。	1				1			
10月	・職員会議での学校長の指導から、非違行為根絶について再確認し、児童や保護者に信頼される教職員としてのあり方について連学年グループで話し合う。	・学校長から教職員の加害事例や事故が起きる時間帯などについての話があった。「気を付けていても事故を起こしてしまうことはある。スピードを出さないようにしたい。」などの感想が出された。	1		1			1		
11月	・人権教育旬間の開始に合わせて、暴言や体罰の事例をもとに、自分の人権意識や言動を振り返り、児童や保護者への対応を学び合う。	・校長講話で「たった一言が人の心を傷つける たった一言が人の心を暖める」というお話があった。それを踏まえて、児童への指導において温かな関わりができていくか振り返った。	1				1	1		
12月	・「非違行為の根絶に向けて」事例(わいせつな行為)や、「わいせつな行為に係る検証報告書」から、問題行動が起きるプロセス(4つの壁)を考え合い、校内ルールを再確認する。	・実際に起きた事例について触れたことで「わいせつな行為が起これしまう環境を作らないことが大切」という感想が出された。	1					1		
1月	・「誓い」を再確認する。「交通事故を起こした時の6か条」を配布し、事故を起こした時の冷静な対応について話し合う。	・「事故を起こした時はどうしても気が動転してしまうが、マニュアルがあることで対応できそう」「マニュアルがあることでお守りになる」などの感想が出された。		1	1		1			
2月	・体罰調査の結果を踏まえて、セルフチェックを行い、児童への適切な接し方について連学年で話し合う。	・体罰がゼロだったことを報告し、セルフチェックをしながら「児童に寄り添った支援」の再確認をした。			1	1				
3月	・検証報告書をもとに非違行為防止マニュアルの見直しについて検討し改善を行う。	・非違行為防止マニュアルを見直し、体罰やハラスメントにの認識や未然防止の取組について再確認した。			1		1			
合計			31	8	3	6	3	5	6	0

○実施した研修に対する非違行為防止委員(第三者の委員)の感想

小谷小学校には非違行為はないと信じているが、引き続きこのような研修を行ってほしい。研修で学んだことを全員で共有し、これからは非違行為のない小谷小学校にしていってほしい。(PTA会長)

※適宜行追加してください。記入できない場合などは、資料を添付してください。